令和７年３月関西広域連合議会定例会議案別冊

関西観光・文化振興計画

関　西　広　域　連　合

第３期関西観光・文化振興計画

【計画期間：令和７年度～令和１１年度】

令和７（2025）年３月

関　西　広　域　連　合

広域観光・文化・スポーツ振興局

目　次

Ⅰ　計画策定の趣旨と期間

１　計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

２　計画の期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

Ⅱ　関西の観光・文化を取り巻く現状と課題

１　現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　主な課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

Ⅲ　観光・文化振興における関西の将来像

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

Ⅳ　将来像実現のための戦略

戦略１　文化資源等を活用した関西の魅力づくり・・・・・・・・・・・・・・９

戦略２　広域周遊観光の更なる推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

戦略３　文化と経済の好循環及び国際発信の推進・・・・・・・・・・・・・・14

戦略４　持続可能な観光・文化振興のための推進体制等の強化・・・・・・・15

Ⅴ　計画の目標

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

（参考）文章中に（※）が付されているものは、20ページに用語説明

Ⅰ　計画策定の趣旨と期間

１　計画策定の趣旨

関西広域連合では、「関西観光・文化振興計画」を策定し、観光・文化振興の戦略的な取組の方向性を示すとともに、計画に沿って着実な取組の実現を図っている。

令和４（2022）年に策定した「第２期関西観光・文化振興計画」は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大の中、観光需要が激減するとともに、人が集まるような公演やイベントの中止・延期で文化芸術分野における発表や鑑賞の機会が失われるなど、観光・文化の分野において深刻な影響を受けている中で策定したものである。そのため、この計画は、令和４（2022）年４月から令和９（2027）年３月までの５年間を計画期間としつつも、インバウンド観光の回復時期が見通せなかったことや、コロナ禍での人々の価値観の変化、新しい生活様式の浸透なども踏まえ、社会・経済情勢の変化に起因する新たな課題等が生じた場合は、計画期間中であっても見直しを行うこととしていた。

観光においては、令和４（2022）年６月に外国人旅行者の受入れが再開され、同年 10 月には入国者数の上限撤廃、個人旅行の解禁、ビザなし渡航の解禁など水際措置が大幅に緩和されたことにより、訪日外客数が大きく増加し、令和６（2024）年には 3,687 万人と過去最高を記録するなど、急激な回復を遂げている。

また、文化においては、令和５（2023）年１月、公演やイベントの観客収容制限が撤廃されたことに加え、同年３月には文化庁の関西移転が実現し、同年７月には官民一体となった文化芸術の取組について、文化庁、関西広域連合、（公社）関西経済連合会、文化庁連携プラットフォーム(※01)による共同宣言「文化の力で関西・日本を元気に」を発表するなど、関西は日本の文化の中心としての地位を着実に高めている。

このように観光、文化分野ともコロナ禍の影響から急速に回復する一方で、外国人旅行者の一部地域への集中といった新たな課題が生じていることから、計画の終期を待たずに新しく計画を策定するものである。

関西広域連合では、令和７（2025）年の「2025 年日本国際博覧会」（以下、「大阪・関西万博」という。）の開催を一過性のものとせず、新たなステージに向けた成長の好機と捉え、関西が一丸となって取り組む観光振興及び文化振興の戦略を示すため、「第３期関西観光・文化振興計画」を策定する。

２　計画の期間

計画期間は、令和７（2025）年４月から令和 12（2030）年３月までの５年間とする。

但し、計画期間中であっても、観光・文化を取り巻く環境が大きく変化した場合は、必要に応じて追記・修正を行うものとする。

Ⅱ　関西の観光・文化を取り巻く現状と課題

１　現状

（１）訪日旅行の状況

訪日旅行の状況について見ると、海外からの観光客は、令和元（2019）年までは、ビザの戦略的緩和等をはじめとするインバウンド施策により、７年連続で過去最高を更新するなど順調に増加していたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、令和２(2020)年２月以降、大きく減少した。

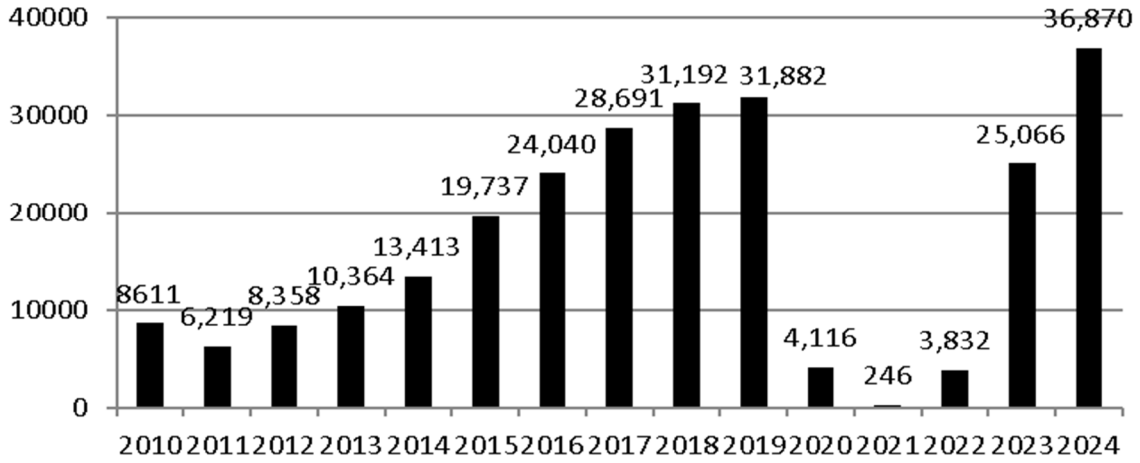
コロナ禍が落ち着く中で、令和４（2022）年６月に外国人旅行者の受け入れが再開され、同年 10 月に水際措置が大幅に緩和されたことにより、訪日外客数は大きく増加。令和５（2023）年には 2,507 万人となり、コロナ禍前の令和元（2019）年と比べ８割程度に回復し、令和６（2024）年には 3,687 万人と過去最高を記録した。

関西における外国人延べ宿泊者数は、令和５（2023）年には 3,325 万人となり、コロナ禍前の令和元（2019）年とほぼ同水準まで回復した。

また、関西への訪問率は、関東 55.4%に次いで高い 43.2%となっている。

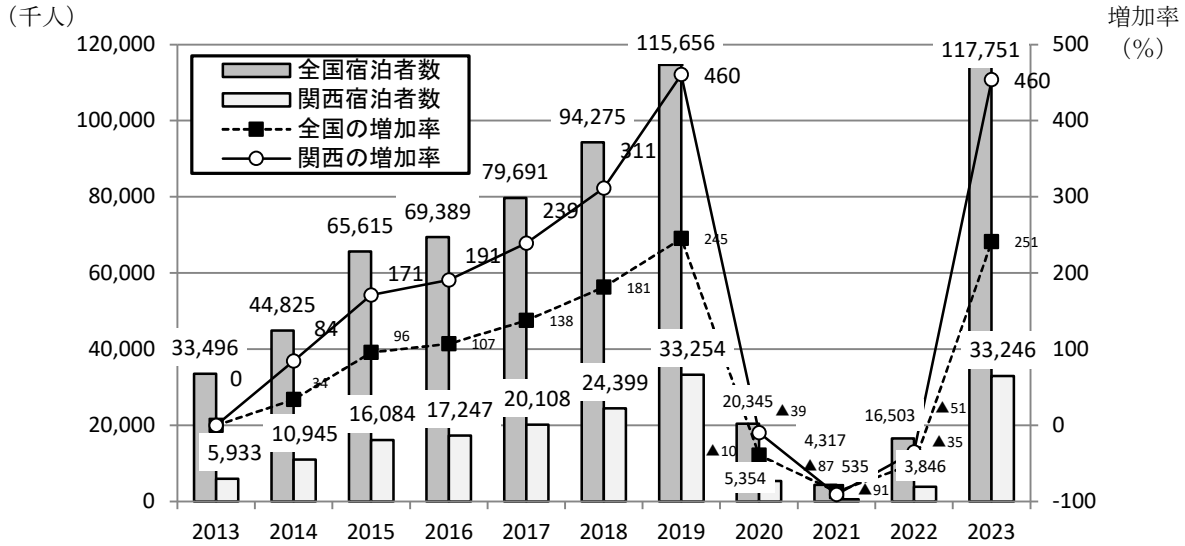
①　訪日外客数の推移

（千人）



（出典： 訪日外客統計（(独法）国際観光振興機構（以下、「日本政府観光局」という。）調査））

② 全国及び関西における外国人延べ宿泊者数の推移

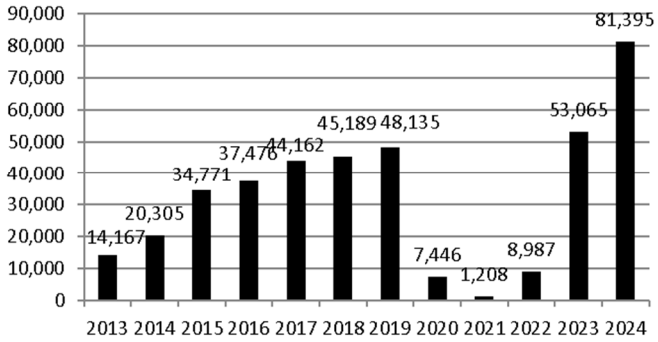


（出典： 宿泊旅行統計調査（観光庁調査））

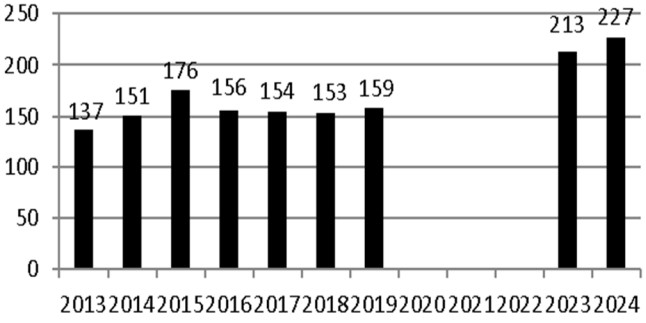
※関西：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県

※増加率は、平成 25（2013）年を基準年とした場合の各年における延べ宿泊者数の指数

③ 訪日外国人旅行消費額の推移



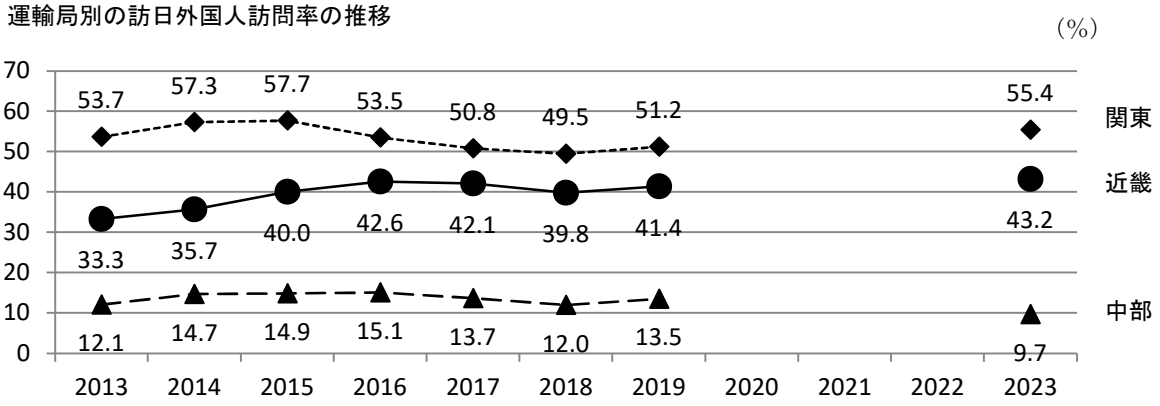
訪日外国人旅行消費額の推移（億円）



訪日外国人旅行消費単価の推移（千円）

（出典： 訪日外国人消費動向調査（観光庁調査））

④ 運輸局別の訪日外国人訪問率の推移

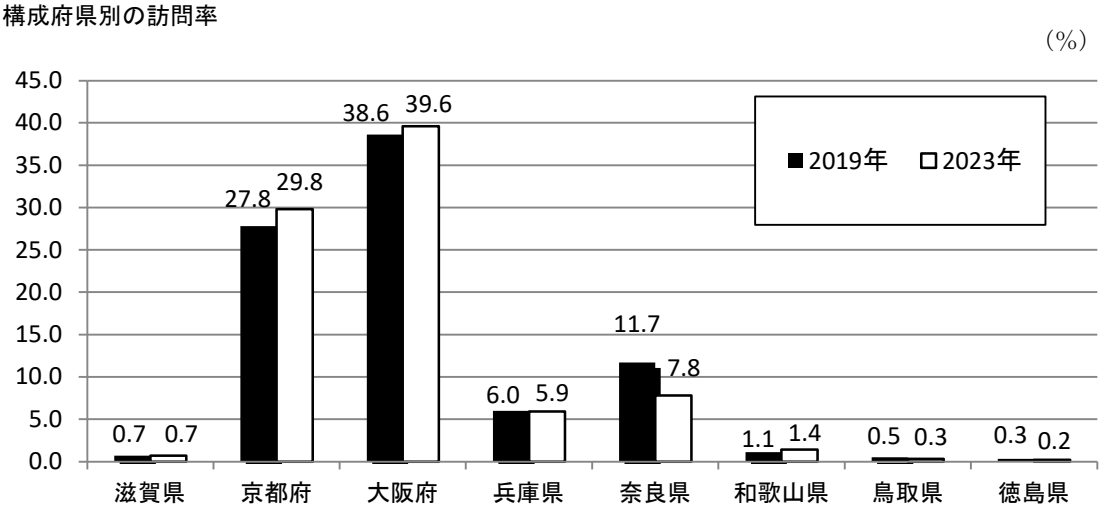


（出典： 訪日外国人消費動向調査（観光庁調査））

※近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

※令和２（2020）年～令和４（2022）年は、新型コロナウイルスにより調査中止となった期間があるため、データ無し

⑤　構成府県別の訪問率



（出典： 訪日外国人消費動向調査（観光庁調査））

（２）文化資源の集積と多様化

関西には、有形文化財で国宝に指定された建造物の約７割、美術工芸品の約５割を占めるなど、日本を代表する有形・無形の文化財や古墳などの記念物、多彩な食文化や伝統芸能など内外の多くの人々を魅了する豊かな文化資源が集積している。日本で初めて奈良県の法隆寺地域の仏教建造物や兵庫県の姫路城が登録されたユネスコの登録世界遺産については、奈良・京都・滋賀の社寺などの歴史的建造物、紀伊山地の霊場と参詣道、百舌鳥・古市古墳群の６件が登録されており、日本で登録された世界文化遺産の約 1/4 を占める。文化庁が認定する「日本遺産」についても、関西には全国の３割に相当する 32 件が登録されている。

更には、文楽をはじめとする舞台芸術（演劇、ダンス、音楽等)、各地域における行催事や伝統技術・工芸、マンガ・アニメ等の新しいコンテンツ文化など、多様な魅力が継承されているほか、芸術系の大学や専門学校、関連事業所等が立地し、数多くの人材が輩出されている。

⑥　文化財件数等

◆　文化財件数（国・都道府県・市町村指定合計）

	国　宝			重要文化財		
	建造物		美術工芸品	建造物		美術工芸品
	件数	棟数		件数	棟数	
全国	231	295	906	9,966	2,343	5,162
関西計	162	197	459	4,485	936	2,023
全国比	70.1%	66.8%	50.7%	45.0%	39.9%	39.2%

	有形文化財（※）			無形文化財			民俗文化財	
	建造物		美術工芸品	芸能	工芸技術	その他	有形	無形
	件数	棟数						
全国	15,098	22,984	72,927	467	372	72	6,114	8,410
関西計	3,249	5,602	12,959	31	53	6	587	814
全国比	21.5%	24.4%	17.8%	6.6%	14.2%	8.3%	9.6%	9.7%

※有形文化財には国宝及び重要文化財を含む

	記念物			文化的景観	伝統的建造物群保存地区	保存技術	合計
	史跡	名勝	天然記念物				
全国	17,975	1,567	14,803	103	234	137	138,279
関西計	1,883	368	1,474	37	49	65	21,575
全国比	10.5%	23.5%	10.0%	35.9%	20.9%	47.4%	15.6%

（出典：文化庁 web サイト（国指定については令和６(2024)年７月１日現在、都道府県及び市町村指定については令和５（2023）年５月１日現在））

⑦　世界遺産・日本遺産等

○　世界遺産

◆　関西の世界遺産

資産名	所在地	記載年	区分
法隆寺地域の仏教建造物	奈良県	平成 5 年	文化
姫路城	兵庫県	平成 5 年	文化
古都京都の文化財（京都市、宇治市、大津市）	京都府・滋賀県	平成 6 年	文化
古都奈良の文化財	奈良県	平成 10 年	文化
紀伊山地の霊場と参詣道	三重県・奈良県・和歌山県	平成 16 年	文化
百舌鳥・古市古墳群 - 古代日本の墳墓群 -	大阪府	令和元年	文化

（出典：文化庁 web サイト（令和６（2024）年７月１日現在））

○　日本遺産

◆　関西の日本遺産（詳細な内訳については 23 ページ参照）

	日本遺産登録件数
全国	104 件
関西計	32 件
全国比	30.7%

（出典：日本遺産ポータルサイト（令和６（2024）年 12 月現在））

○　ジオパーク

関西のジオパーク	所在地	日本ジオパーク認定
山陰海岸ジオパーク	京都府、兵庫県、鳥取県	2008 年
南紀熊野ジオパーク	奈良県、和歌山県	2014 年
三好ジオパーク	徳島県	2024 年

※ジオパーク認定件数　　全国 47 地域　　関西３地域

（出典：(特非) 日本ジオパークネットワーク web サイト）

⑧　芸術家・芸能就業者

○　芸術家人口

◆　職業（小分類）別 15 歳以上就業者数（抽出調査）

	計	著述家	彫刻家，画家，工芸美術家	デザイナー	写真家，映像撮影者	音楽家	舞踊家，俳優，演出家，演芸家
全国	435,960	30,130	47,320	201,100	69,170	26,080	62,160
首都圏	246,870	19,410	25,860	109,360	32,210	17,230	42,800
（全国比）	56.6%	64.4%	54.6%	54.8%	46.6%	66.1%	68.9%
関西	**92,990**	**5,910**	**9,960**	**48,550**	**13,600**	**5,500**	**9,470**
（全国比）	**21.3%**	**19.6%**	**21.0%**	**24.1%**	**19.7%**	**21.1%**	**15.2%**

（出典：総務省「国勢調査」（令和２（2020）年））

（３）文化庁の関西移転や官民一体での共同宣言を契機とした新たな文化行政の展開

令和５（2023）年３月、文化庁が関西に移転するとともに、国により文化芸術推進基本計画（第２期）が策定され、文化資源の保存と活用の一層の促進や、文化芸術を通じた地方創生の推進を図ることとされた。また、同年７月に官民一体となった文化芸術の取組について文化庁、関西広域連合、(公社) 関西経済連合会、文化庁連携プラットフォームの４者による、共同宣言「文化の力で関西・日本を元気に」が発表され、文化芸術の国際発信とグローバル展開にビジネスの観点を取り入れて戦略的に取り組む CBX(Cultural Business Transformation) (※02) を推進することになった。

（４）関西の交通インフラの充実

神戸空港の国際化を含む関西・伊丹・神戸３空港の一体運用による国内外の航空需要への対応や関西国際空港・神戸空港の発着枠の拡大、山陰近畿自動車道の順次開通、北陸新幹線の敦賀駅延伸など関西の広域観光の利便性が向上している。

また、「WEST EXPRESS 銀河」、「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」、「はなあかり」、「あめつち」などの府県をまたぐ観光列車や淀川舟運の就航など、移動自体を楽しむ交通手段の充実も図られている。

（５）DX 推進に関する取組

MaaS(※03)のサービス進展やチケットのデジタル化、翻訳アプリ等の精度向上や舞台鑑賞時における AR 眼鏡の活用など、DX を活用した効率化や新しいサービスの提供が進められている。

大阪・関西万博を契機に関西を訪れる人の増加が見込まれており、様々な分野での更なる DX による受入環境の充実が求められている。

（６）大阪・関西万博に向けての取組

令和７（2025）年４月から 10 月まで、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマにした大阪・関西万博が開催され、会場内に、各府県の歴史、観光、文化等の魅力を一堂に展示する「関西パビリオン」を設置し、関西の魅力を発信する取組を進めている。

また大阪・関西万博には、国内外から 2,800 万人の来場が見込まれており、これらの来場者を関西各地への周遊につなげるため、関西広域連合の構成府県市や（公社）関西経済連合会、民間企業などとともに「EXPO2025 関西観光推進協議会」を立ち上げ、「万博プラス関西観光推進事業」に取り組んでいる。更に、令和６（2024）年８月から、大阪・関西万博へ向けた機運醸成や関西の文化力の向上のために、「KANSAI 感祭(※04)」を関西各地で開催し、関西文化が広く認知されるよう、文化発信に取り組んでいる。

２　主な課題

（１）外国人旅行者の広域への分散化

外国人旅行者が選択する旅行先が一部の地域に集中しており、関西の他の地域との訪問率の差は縮まっておらず、観光客の分散化を進めることが重要な課題となっている。関西各地の魅力ある観光資源を活用した広域周遊観光(※05)を更に推進し、関西各地の地域振興につなげていく必要がある。

（２）増加する外国人旅行者への受入環境の整備

大阪・関西万博を契機に、関西には世界中の様々な国・地域からの来訪者が増えると見込まれることから、誰もが安心して旅行を楽しむことができるよう、多様な言語、食や宗教、生活習慣などに対応した受入環境の整備、災害発生時に備えた外国人旅行者の安全の確保に向けた取組などを更に推進していく必要がある。併せて、文化や習慣の違いに起因する行動により、地域住民の生活への影響が生じるといった課題への対応のため、地域住民の生活の質の確保と外国人旅行者の満足度向上の両立に向けた取組も進める必要がある。

また、観光を支える人材の不足は一層顕在化しており、大学や専修学校等と協力した人材育成や、観光関連産業における労働生産性の向上、商品の高付加価値化を通じた待遇改善等による人材確保などの取組を進める必要がある。

（３）文化の次世代への保存・継承と発展

少子高齢化などの社会情勢の変化に伴い、担い手が減少していることから、次世代を担う子どもたちが文化への愛着を育めるよう、その魅力に触れる機会を創出することや文化活動への支援を行うほか、官民連携のもと、文化資源の磨き上げ・掘り起こしを行い、文化観光などによる新たな価値の創造を図ることで、文化の保存から活用への持続可能な好循環を生み出していく必要がある。

（４）関西の文化芸術の国際発信力の強化

関西の文化芸術の海外へ向けた発信が不十分であることから、関西の歴史や伝統に根ざした文化を活用して日本全体の活性化を目指す、平成 15（2003）年の「関西元気文化圏構想」に基づく新たな取組として、令和５(2023)年７月の共同宣言で推進することとしたCBX(Cultural Business Transformation)について、今後は文化庁、関西広域連合、関西の経済界が一体となり、行政、経済、教育、文化芸術等の関係団体や地域住民等と連携したオール関西で取組を進めていく必要がある。

Ⅲ　観光・文化振興における関西の将来像

文化と観光で織りなす『創造の関西』

関西が長い歴史を通じて育み紡いできた、豊かで多彩な文化は、国内外から多くの観光客や多様な人材を惹きつけてきた。関西広域連合では、文化庁や経済界、観光・文化関係団体などと一体となったオール関西体制で、関西が新たな価値を生み出し、世界に発信し続けるクリエイティブな地域となることを目指す。

●持続可能な観光が実現する関西

関西の多様な文化、豊かな自然、地域に根差した産業などの魅力を活かすとともに、新しい魅力を創出し続け、地域と調和した観光振興が、地域の環境・文化・経済を守り育むことにつながるなど、訪れてよし・住んでよしの持続可能な観光が実現する関西を目指す。

●新たな文化やビジネスモデルが創出され続ける関西

若手起業家やクリエイターにとって魅力的な地域であるとともに、異分野融合により、新たな文化やビジネスモデルが創出され続けるクリエイティブなエリアとして発展する関西を目指す。

Ⅳ　将来像実現のための戦略

観光・文化振興における関西の将来像の実現を目指し、以下の戦略に取り組む。

戦略１　文化資源等を活用した関西の魅力づくり

関西で育まれてきた多様な有形・無形の文化資源や、豊かな自然、地域に根差した産業などを活かし、関西各地の魅力づくりを進め、観光面での活用を促進する。また、文化芸術の担い手育成や様々な人々の文化芸術活動への参画の促進等にも取り組み、より一層の関西の活性化につなげる。

（１）多様な文化資源の振興

①舞台芸術を通じた賑わい創出

・　関西にゆかりのある文化人の記念となる周年などを契機とした取組による能、狂言、歌舞伎、文楽等の舞台芸術の活性化を図る。

②建築文化の振興

・　古代から残る寺社等の木造建築や伝統的建造物群等の伝統的町並み、近現代建築など関西各地の歴史的、文化的背景のある建築物等を活用することにより、その魅力や世界観を継承・発展させる取組を推進する。

③メディア芸術やデジタル技術を活用した文化芸術の推進

・　映画・マンガ・アニメーション・ゲーム等のメディア芸術やデジタル技術を活用した文化芸術活動を推進する。

④生活文化の振興

・　関西を訪れる多くの方々に、生活文化（茶道・華道・書道・食文化等）の魅力を身近に体感できる機会を創出するほか、関西の食文化の歴史やレストラン、レシピ等の情報を掲載した関西郷土料理サイトを制作するといった取組を推進する。

（２）文化観光や産業観光(※06)等の推進

①文化資源等の高付加価値化や魅力向上の推進

・　特別感、上質感のあるサービスを求める観光客のニーズに対応するため、関西各地の魅力を活かした付加価値の高い観光資源や体験コンテンツ等の創出、情報発信の強化に取り組む。

・　庭園や建築物、古墳等の歴史遺産、文化財にストーリーを設定したコンテンツ作成による魅力向上及び国内外への発信を推進する。

・　専門家による解説を交えた文化財修復現場や劇場の舞台裏見学、文化芸術と食事・宿泊等の組み合わせによる特別な鑑賞機会の提供等による文化資源の高付加価値化を推進する。

②文化施設・芸術団体の活用強化

・　関西の博物館と美術館を無料または割引料金で利用できる「ミュージアムぐるっとパス」について、デジタル版の利用促進に向けて参加施設の拡大を図る。

・　有意義なナイトライフを過ごせるよう、関西の舞台芸術やパフォーミングアーツ、音楽公演等の広報など情報発信を推進するとともに、関西のオーケストラ公演等で利用できる割引制度の導入等も検討する。

・　関西に立地する、国等の公的施設、大学、民間企業等のミュージアム、多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナなどの文化施設等との連携強化とともに、多言語での情報発信等による「関西文化の日」の充実を図る。

・　関西の文化施設や地域の祭り、文化財の VR コンテンツ等のライブラリー化と国内外への発信を推進する。

・　関西の博物館資料のデジタル・アーカイブ化と観光その他関連分野での活用を推進する。

③生活文化や舞台芸術等を活かした観光の推進

・　文化庁や構成府県市と連携した「古典の日」の取組の推進と歴史や伝統ある関西の文化を全国に発信する。

・　茶道・華道・書道、伝統工芸、祭り等、関西各地の伝統的な生活文化を活かした特別な体験型観光を推進する。

・　ユネスコ無形文化遺産にも登録された「和食」「伝統的酒造り」等の日本の食文化を国内外へ発信するとともに、関西各地の食材や料理にまつわる歴史や背景をストーリー化し、観光客に伝えることで、地域の食文化に親しむガストロノミーツーリズム

(※07) を推進する。

・　舞台芸術、無形文化遺産（芸能、祭礼、伝統・工芸技術等）等を活用した文化観光の推進による地域創生を図る。

④地域の産業等を活かした観光の推進

・　酒蔵や工場、工房等の見学など、関西各地の地域に根差した産業を活用した産業観光を推進する。

・　農山漁村の地域資源を活用して、旅行者に農業・漁業体験や自然とのふれあい、地元の人々との交流などの農泊体験等を提供する。

・　自然環境や歴史文化などの地域固有の魅力を、観光客が体験し、学ぶことにより、その価値の理解を深め保全につなげるエコツーリズムを推進する。

⑤滞在型観光の推進

・　外国人旅行者が、一定の地域に長期滞在することで、その地域の文化に触れ、住民との交流や様々な体験を享受できる滞在型観光を推進する。

・　豊かな自然や温泉などの健康増進や心身の癒しに資する資源を活用し、地域の健康文化の体験や、心身のリフレッシュを目的とした体験プログラムなどを盛り込んだヘルスツーリズム (※08) やウェルネスツーリズム (※09)による長期滞在型の観光を推進する。

（３）文化芸術の担い手育成や様々な人々の参画促進

①無形文化財等の次世代への継承

・　子どもたちが伝統芸能や民俗芸能等を鑑賞・体験できる機会を拡大するとともに、日本文化、地域文化に係る教育の充実を図る。

・　専門家による解説を交えた文化財修復現場や劇場の舞台裏見学、文化芸術と食事・宿泊等の組み合わせによる特別な鑑賞機会の提供等による文化資源の高付加価値化を推進する。【再掲】

・　関西各地の伝統芸能や生活文化等に関するレクチャー動画の制作や関西で活躍する能楽師、歌舞伎役者、茶道、華道等の家元等、文化芸術の専門家を講師とした親子体験講座等を開催する。

・　博物館等の文化施設や文化財を積極的に活用し、子どもたちの文化芸術の鑑賞・体験を推進する。

・　伝統芸能をはじめとする無形文化財の保存・活用や、地域の祭りや伝統行事の振興、文化財修理に必要な技術の継承、用具・原材料等の確保と次世代への継承を図る。

・　文化財保護強調週間（毎年11月１～７日）における文化財に関する各種行事の実施、「文化財防火デー」（毎年１月 26 日）における文化財防火運動の展開等により、文化財愛護に関する意識高揚を図る。

②文化芸術に関わる人材の育成

・　文化財修復現場や祭りなどの用具等の専門家による解説や見学、劇場の舞台裏見学など、関西文化の裏方に触れる機会の創出に取り組む。

・　地域の歴史・文化等を説明するボランティア人材の育成講座等を開催する。

・　文化芸術活動を行う者に対する支援情報サイトの充実を図る。
・　性別、年齢、障害の有無や国籍等にかかわらず、誰もが文化芸術活動へ参画する取組を推進する。

戦略２　広域周遊観光の更なる推進

関西各地の魅力あふれる観光コンテンツをテーマやストーリーで結んだ広域周遊観光を推進するとともに、周遊を促す環境の整備に取り組む。

（１）関西の多様な魅力を活かした広域周遊観光の推進

①テーマ別観光の推進

・　長い歴史の中で重層的に集積された文化が現在にも息づいているという関西ならではの特徴を活かし、関西各地の有形・無形の文化財をはじめ、多種多様な資源を共通のテーマやストーリーで結ぶことにより、地理的なつながりにとどまらない周遊プランの造成に取り組む。
・　（一社）関西観光本部と連携して構築した広域観光ルート「THE EXCITING KANSAI」について、それぞれのルートにおけるテーマやストーリーをさらに発信していくことで、周遊観光の強化を図る。
・　地質遺産としても価値が高く、美しい景観の「山陰海岸ジオパーク」や「南紀熊野ジオパーク」、「三好ジオパーク」を巡る旅行商品の造成と、ジオパークのプロモーションを推進する。
・　関西の博物館と美術館を無料または割引料金で利用できる「ミュージアムぐるっとパス」について、デジタル版の利用促進に向けて参加施設の拡大を図る。【再掲】
・　関西に立地する、国等の公的施設、大学、民間企業等のミュージアム、多様な世代が集う交流拠点としてのスタジアム・アリーナなどの文化施設等との連携強化とともに、多言語での情報発信等による「関西文化の日」の充実を図る。【再掲】

②多様なツーリズムの推進

・　国立公園や国定公園をはじめとする関西各地の魅力ある自然を活かし、自然・文化・アクティビティの構成要素を通じて関西の本質を深く体験できるアドベンチャーツーリズムやアウトドアアクティビティによる周遊観光を推進する。
・　令和９（2027）年の「ワールドマスターズゲームズ 2027 関西」開催を契機に、スポーツの参加や観戦を目的とした関西各地への訪問や、ゴルフ、トレッキング、サイクリングなどのスポーツと地域資源を掛け合わせた観光を楽しむスポーツツーリズムの推進に取り組む。
・ インセンティブ旅行や海外の大学・企業等による関西の企業見学、工場見学等の実施などビジネス観光を切り口とした広域観光を推進する。
・　ユネスコ無形文化遺産にも登録された「和食」「伝統的酒造り」等の日本の食文化を国内外へ発信するとともに、関西各地の食材や料理にまつわる歴史や背景をストーリー化し、観光客に伝えることで、地域の食文化に親しむガストロノミーツーリズム(※07) を推進する。【再掲】

③多様な交通手段を活用した周遊ルートの造成

- 関西の空の玄関口である関西国際空港及び地方空港へ就航する国際便や、関西各地に寄港するクルーズ船、関西各地を巡る観光列車、高速道路など、新たな交通手段を活用した広域観光ルートの造成に取り組む。
- 観光列車、舟運、自動車、モーターサイクル等多様な交通手段によって、旅の移動手段も楽しむ周遊観光を促進する。
- 関西国際空港での情報発信の強化や、関西周辺の各地域や西のゴールデンルート(※10)をはじめとする広域観光圏とも連携した関西発着の新たな広域観光ルートについて検討する。

④外国人旅行者への情報発信の強化

- 大阪・関西万博開催期間中においては、開催にあわせて関西各地で行われる取組等の情報発信を強化し、来場者の関西各地への周遊を促進する。
- 各観光地の情報や、テーマ・ストーリー別の観光ルート情報などを、(一社) 関西観光本部の観光情報サイトを通して発信を推進する。
- SNS 等のネットメディアでの発信力があるインフルエンサーなどを活用し、外国人旅行者目線での情報発信を推進する。
- 観光地や公共の場でのマナーや、日本の慣習等をウェブサイトや SNS 等で発信するなど、地域住民の生活の質の確保と外国人旅行者の満足度向上の両立に向けた取組を推進する。
- (一社) 関西観光本部と連携し、交通情報、宿泊情報、災害情報等、観光に関する様々な情報の一体的な発信を推進する。

(２) 受入環境の整備

①外国人旅行者にもわかりやすい環境整備の推進

- 宗教や、食等の多様な習慣、生活様式に対応できるよう、食事のアレルギーや成分表示の多言語対応、礼拝場所の情報提供、観光案内標識等の多言語対応、ピクトグラムや地図の活用など、外国人旅行者等にわかりやすい環境整備の促進を図る。
- 観光地、宿泊施設、公共交通機関の各場面において、外国人旅行者が安全・快適に旅行を満喫できる環境の整備を図るため、観光案内所の連携や多言語での観光情報提供機能の強化、キャッシュレス決済の普及等に関する取組の促進を図る。

②交通アクセス等の利便性向上

- 都市部以外の地域への周遊を促進するため、周遊観光バスやライドシェアの導入など二次交通の課題解決に向けた先進事例を共有するセミナー等の機会を設ける。
- 交通事業者による空港・駅・バスターミナルなど交通アクセスの利便性の向上や広域的な MaaS の推進に関する取組に協力する。
- 関西広域連合本部事務局等とも連携し、関西の隅々まで円滑な移動が可能となるよう交通インフラの整備推進や、各地域の実情に応じた柔軟で多様なライドシェアの観光への活用について、必要に応じて、国に制度改善の提案などを行う。

（３）大阪・関西万博を契機とした国際交流の深化

①訪日教育旅行による観光交流の推進

- 大阪・関西万博を契機に国際交流への機運を高めるほか、訪日教育旅行を積極的に受入れるなど、関西各地での若者同士の交流を促進する。
- 訪日教育旅行の受入れにあたっては、生徒・児童間の交流だけでなく、地域との交流を促進し、関西の文化に触れる機会を増やし、将来の関西のファンづくりにつなげる。
- 訪日教育旅行について、地元産業の体験をプログラムに組み込むなど、内容の充実を図るとともに、関西としてのプロモーション活動を実施する。

②国・地域との観光交流の推進

- 関西広域連合が、観光に係る覚書などを締結した国・地域と連携し、各国に共通する課題等についてグローバルな連携で解決を目指す取組を実施するなど、観光分野での交流を推進する。

（４）災害時等の安心安全の確保に向けた取組の推進

①防災情報の提供

- 災害が発生し、又は発生するおそれがある場合や交通障害発生時において、鉄道、バス、旅客船ターミナル、空港等において、外国人旅行者を含む利用客を混乱なく避難誘導できるよう、多言語での音声案内や、「KANSAI MaaS」を活用した情報発信など、各事業者の取組に協力する。
- 大雨や大規模地震、津波等の災害発生時には、域内の外国人をはじめとする観光客が適時・的確に命を守る行動が取れるよう、災害の状況、二次災害の危険性に関する情報、交通施設等の復旧状況に関する情報等の迅速な収集と提供を構成府県市と協力して実施する。
- 日本政府観光局のウェブサイトや災害時情報提供アプリ「Safety tips」を活用した外国人旅行者向けの災害情報発信や、日本政府観光局のコールセンターにおける多言語での問合せ対応等の取組を、関西広域連合のホームページや SNS で発信する。

②安心安全の確保に向けた環境整備

- 災害等の緊急時に備えて、広域防災局・広域医療局とも連携し、関係施設の協力を得て、一時滞在施設や備蓄品の確保、帰宅困難者支援などの環境整備や、医療提供体制などの適切な情報提供に取り組む。

戦略３　文化と経済の好循環及び国際発信の推進

関西がアーティストやクリエイターなど様々な人々にとって魅力的で人材が集積する地域となるため、関西の文化芸術発信の拠点化、文化芸術を活用した新しいビジネスモデルや国際発信の推進などに取り組む。

（１）関西圏の文化芸術の一大発信拠点化

①文化芸術の拠点形成

- 関西圏が、伝統文化から現代アートまで国内外のアーティストやクリエイター等、様々な人々にとって魅力にあふれ人材が集積する国際的な文化芸術の一大発信拠点に

なることを目指す。

・　先端産業等との異分野交流により新たな文化創造と文化を活かした新たなビジネスモデルの創出を推進する拠点形成に取り組む。

②文化芸術の国際発信

・　関西各地で開催されるアート作品を展示・販売するアートフェア、景観や地域文化と現代アートの融合により地域の新たな魅力創出を図る芸術祭等について、開催時期を合わせたり、周辺で開催される関連イベントと連動させるなど、関西のアート市場の活性化により、世界的なアート市場とする取組を推進する。

・　令和７年５月に初めて開催される「MUSIC AWARDS JAPAN 2025 KYOTO」をはじめとした関西の文化芸術の国際発信とグローバル展開にビジネスの観点を取り入れた海外への展開を推進する。

・　「日本博 2.0」の活用とレガシーの継承・発展による関西文化の国内外への発信を推進する。

・　文化庁や構成府県市と連携した「古典の日」の取組の推進と歴史や伝統ある関西の文化を全国に発信する。【再掲】

（２）文化芸術を活かした新たなビジネス創出

①文化芸術を活かした新ビジネスの推進

・　関西の文化資源の磨き上げ・掘り起こしを行い、文化観光などによる新たな価値の創造、文化の保存から活用への持続可能な好循環モデルを創出する。

・　アーティストと企業などの多分野交流を推進し、新たな文化創造や文化芸術を活かした新たなビジネス創出やまちづくりを促進する。

・　映画・マンガ・アニメーション・ゲーム等のメディア芸術やデジタル技術を活用した文化芸術活動を推進する。【再掲】

②文化資源の利活用

・　文化芸術活動の推進のための多様な財源確保方策の広報を行う。

・　寺院での写経や朝がゆ体験、舞台芸術の公演や博物館・美術館等の新たな夜間開館の取組など、関西各地の魅力的な体験コンテンツなどを発信し、関西の有形・無形の文化資源を活用した朝観光やナイトタイム・エコノミー(※11)の活性化に向けた取組を推進する。

・　音楽とアートの融合的取組を推進するとともに、文化芸術の担い手等と関西圏の企業が集い、文化芸術と経済が有機的なつながりを創り出す取組を推進する。

戦略４　持続可能な観光・文化振興のための推進体制等の強化

持続可能な観光・文化振興の実現に向け、地域と調和した受入環境の整備を図るとともに、推進体制を強化し、関係団体との連携を深める。

（１）地域と調和した観光の実現のための環境整備

①情報発信の強化

・　観光客のニーズを満たしつつ、文化財や自然環境等への負荷や、観光地に暮らす人々

の生活への影響を軽減するため、住環境への配慮、文化や習慣の理解促進、自然環境への負荷防止等の啓発に向け、積極的な情報発信に努める。

- 持続可能な観光地域づくりの一環として、資源の有効活用や環境負荷の低減に向けて、資源や物を大切に使う日本の文化の情報発信を強化する。
- 観光客の分散化により混雑を緩和するため、朝や夜にも楽しむことができる関西各地の体験コンテンツやイベント、四季折々の見どころなどの情報発信を強化する。

②先進事例の共有や情報交換の実施

- 構成府県市における SDGs に関する取組事例を収集・共有することにより、持続可能な観光地域づくり・運営に関する取組の促進を図る。
- エコツーリズムやカーボンオフセットプログラム（※12）の導入、観光施設での再生可能エネルギーの活用など、自然環境や文化遺産に負荷をかけないための先進的な取組事例や成功事例の共有に取り組む。
- 観光客の受入と地域住民の生活の質の確保を両立できる観光地経営を実現するため、関西広域連合及び各構成府県市において、民間事業者や地域住民との情報交換の場を設ける。
- 日本政府観光局や（一社）関西観光本部とも連携し、外国人旅行者の嗜好やニーズ、動向など観光関連のデータ等を活用し、効果的なマーケティングや訪日外国人受入体制の充実につなげる。

（２）観光・文化を担う人材の育成

①通訳案内士の育成

- 通訳案内士と旅行会社や宿泊施設などの観光事業者とのマッチングを強化するとともに、情報交換等のネットワークを形成し、通訳案内士の活躍の場を更に広げる。
- 通訳案内士等に対し、更なるスキルアップに向けた研修を実施するとともに、文化など多様な観光資源に関する情報を提供する。

②観光・文化人材の育成

- 観光関連産業の人材不足を補うため、外国人の受入環境の整備について、引き続き国に提案を行う。
- DMO（※13）や学術機関と連携し、持続可能な観光地域づくり・観光地全体の経営を担う人材の育成に取り組む。
- 観光産業における経営の効率化、生産性の向上を図るとともに、各構成府県市における取組を共有し、人材の確保を促進する。
- 文化施設や文化芸術の関係者、観光事業者等が連携を図り文化観光を推進するため、好事例の紹介等の情報発信、大学や関連する学会等と連携したワークショップ等に取り組む。
- 文化財修復現場や祭りなどの用具等の専門家による解説や見学、劇場の舞台裏見学など、関西文化の裏方に触れる機会の創出に取り組む。【再掲】
- 地域の歴史・文化等を説明するボランティア人材の育成講座等を開催する。【再掲】

・　文化芸術活動を行う者に対する支援情報サイトの充実を図る。【再掲】

（３）観光・文化振興のための連携強化

①（一社）関西観光本部の推進体制の強化

・　官民連携により関西広域での観光客誘致をはじめとする観光振興に取り組んでいる（一社）関西観光本部の広域観光推進体制の強化を図るとともに、これに必要な財源の確保、組織体制の強化等により、運営の安定化を図る。

②関西広域連合の各分野事務局や構成府県市等との連携強化

・　関西広域連合の各分野事務局との連携を強化し、災害・医療など非常時における外国人旅行者の安心・安全な旅行環境の整備を図るほか、産業観光、エコツーリズムなどの取組を推進する。

・　各地域の特性や実情を踏まえた観光・文化振興の取組を推進する構成府県市との連携を強化する。

・　（一社）関西観光本部等と連携し、各地域における地域づくりや観光コンテンツ造成等の好事例を共有するセミナーの開催などにより、関西各地のDMOの連携強化を図る。

・　関西広域連合、構成府県市、（一社）関西観光本部が連携し、テーマ別に周遊観光を推進する協議会を設置するなど、広域観光を推進する体制を構築する。

③国機関等との連携の強化

・　観光庁や日本政府観光局、（一財）自治体国際化協会、構成府県市等の姉妹・友好提携自治体、日本の在外公館、UNWTO駐日事務所、駐日外国公館などとの連携の強化を図る。

・　関西広域連合と文化庁の事務担当者レベルの会議を定期開催するなど、関西広域の文化振興における連携の強化を図る。

（４）大阪・関西万博に向けて進めてきた取組や情報発信の継続

①広域観光・文化振興に関する取組の継続的な実施

・　関西広域連合も参画する「EXPO2025関西観光推進協議会」において造成された、関西各地のコンテンツタリフ（※14）や旅行商品を大阪・関西万博後も継続的に活用し、関西を訪れる人々が継続的に関西を周遊できる環境を維持する。

・　大阪・万博を契機とし文化資源、文化芸術の国際発信推進し、文化資源を活用することで経済・地域活性化を推進する。

・　関西各地において、祭り、文化財の特別公開、アーティスト・イン・レジデンス（※15）など多様なイベント等の実施を促進する。

②情報発信の継続的な実施

・　大阪・関西万博開催中に関西を訪問した海外メディアとのネットワークを構築し、効果的な情報発信を行う。

・　（一社）関西観光本部の観光情報サイトを活用し、外国人旅行者に向けた情報発信の更なる充実を図る。

・　構成府県市においてMICEが実施される際には、関西各地の誘客につながるよう、開催地とも連携し、MICEの主催者や参加者に向けて関西各地の観光などの情報提供に努める。

Ⅴ　計画の目標

１　観光分野の目標

◆関西全体でプラスワンナイトを目指す。

項　　目	2023 年	2029 年（目標）
関西での外国人平均泊数	5.5 泊	6.5 泊

※近畿運輸局管内の平均泊数　（出典：訪日外国人消費動向調査（観光庁調査））

◆関西全体で１人当たり消費単価の３割アップを目指す。

項　　目	2023 年	2029 年（目標）
関西での外国人旅行消費単価	120,594 円	156,772 円

※近畿運輸局管内の旅行消費単価　（出典： 訪日外国人消費動向調査（観光庁調査））

２　文化分野の目標

◆関西の文化芸術に親しむ機会の拡大を目指す。

項　　目	2024 年	2029 年（目標）
ミュージアムぐるっとパス関西	44 館	300 館

※「ミュージアムぐるっとパス関西」は、関西の対象施設（博物館等）の展覧会に有効期間内であれば無料または割引料金で入場できるチケット（入場証）

※令和６年（2024)年４月から電子チケットを紙チケットと併用して発行

◆関西在住者の文化芸術に係る幸福感の向上を目指す。

項　　目	2024 年	2029 年（目標）
地域幸福度（文化・芸術）	47.1	55.0

※地域幸福度（Well-Being）指標とは、地域の「暮らしやすさ」と住民の「幸福感」を共通の指標で数値化・可視化したもの（偏差値）

※文化・芸術因子の「暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」「将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい」カテゴリーを抽出

（出典： 地域幸福度 Well-Being 指標（デジタル庁調査））

（用語説明）

〇文化庁連携プラットフォーム（※01）
文化庁京都移転の意義の実現に向けて、文化庁との連携による新たな文化政策の展開や、世界に向けた日本文化の発信等により日本文化の国際的な価値を高めることを目的とした京都府内市町村や京都商工会議所等の経済界、文化団体等で構成するオール京都の推進体制

〇CBX（Cultural Business Transformation）（※02）
令和５（2023）年３月、文化庁が策定した文化芸術推進基本計画（第２期）の重点施策に位置付けられた「日本の文化芸術の国際発信強化とグローバル展開を、ビジネスの考え方を取り入れつつ効果的・戦略的に進める、変革を目指した取組」のこと。

〇MaaS（※03）
「Mobility as a Service」の略。地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスのこと。

〇KANSAI 感祭(※04)
「文化の力で切り拓く関西の未来社会」をテーマに大阪・関西万博に向けた機運醸成、関西の文化力の向上や関西各地の活性化を図るため、関西各地の文化イベントと連携し、関西の伝統芸能や食、アート展示など多彩な関西文化の魅力を発信するイベントのこと。

〇広域周遊観光(※05)
複数の観光地を移動し、宿泊地を変えていく旅行形態のこと

〇産業観光（※06）
歴史的・文化的価値のある産業文化財（古い機械器具、工場遺構などのいわゆる産業遺産）、生産現場（工場、工房等）及び産業製品を観光資源とし、それらを通じてものづくりの心にふれるとともに、人的交流を促進する観光活動

〇ガストロノミーツーリズム（※07）
その土地の気候風土が生んだ食材や習慣、伝統、歴史などによって育まれた食を楽しむ旅行のこと。

〇ヘルスツーリズム（※08）
個人のニーズを満たし、環境や社会の中で個人としてより良く機能する能力を高める医療やウェルネスに基づいた活動を通じて、身体的健康、精神的健康に貢献することを主な動機とした観光のこと。

〇ウェルネスツーリズム（※09）
身体、精神、感情、職業、知性、スピリチュアリティなど、人間の生活のすべての領域 を向上させ、バランスをとることを目的とした観光活動のこと。ヘルスツーリズムの一つ。

〇西のゴールデンルート（※10）
欧米豪を中心としたインバウンド客を、大阪より西のエリアに広域周遊を促進するために進められている取組のこと。この取組を進めるために、福岡市、神戸市、広島県、高松市など西日本・九州の自治体で構成されたアライアンスが組織されている。

〇ナイトタイム・エコノミー（※11）
１８時から翌日朝６時までの間に、様々な活動を通じて地域の魅力や文化を発信し、消費拡大などにつなげる考え方のこと。

〇カーボンオフセットプログラム（※12）
日常生活や経済活動において避けることができない CO2 等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせること。

〇DMO（※13）
「Destination Management／Marketing Organization（観光地域づくり法人）」の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人のこと。

〇コンテンツタリフ（※14）
旅行会社や取引業者向けに、観光コンテンツについての手数料・取扱いのルール等を、具体的かつ詳細に記載したもの。

〇アーティスト・イン・レジデンス（※15）
芸術制作を行う人物を一定期間ある土地に招聘し、その土地に滞在しながらリサーチ活動や作品制作を行う機会を提供すること。

【参考】

関西広域連合によるこれまでの主な取組

（１）広域観光の推進

- 国内外観光客の誘客と関西への来訪動機づくりのため、関西に点在する文化財、食、自然など共通のテーマの観光資源について磨き上げを行い、「テーマツーリズム」を推進した。
- 平成 29（2017）年４月に（公社）関西経済連合会と共に設立した広域連携 DMO「(一社）関西観光本部」を中心に、８つの広域観光ルート「THE EXCITING KANSAI」の造成、マーケティングや海外向けの関西観光プロモーション、外国人旅行者の受入基盤整備支援、観光人材の育成など官民が一体となった取組を進めた。

（２）戦略的なプロモーションの展開

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、直接海外に出向いてのプロモーションが困難であった期間中も、「2020 年ドバイ国際博覧会」（ドバイ万博）を訪れる VIP に向けたプロモーション等の実施や、官民連携による海外メディアの招請及び情報発信等を実施し、将来のインバウンドの回復を見据え、訪日意欲の高い海外の方々に関西の観光情報の発信を行った。
- 国や、関西エアポート（株）など経済界とともに、フランス、イギリス、タイ、韓国、シンガポールなど海外へのトッププロモーションを行い、関西の認知度向上に取り組んできた。また、(一社）関西観光本部とも連携し、東アジア・東南アジア・欧米豪等における旅行博・商談会への参加、旅行会社やメディアの招請など、効果的かつ戦略的なプロモーションを展開してきた。

（３）外国人旅行者等の受入を拡大するための観光基盤の整備

- 全国通訳案内士の活動量の増進と、ガイドサービスの質の更なる向上を図るためのセミナー・研修を実施。観光地での実地研修の実施や、エージェントと通訳案内士との交流の機会を設けるなど、通訳案内士の活躍の機会拡大にも努めた。
- 外国人旅行者の周遊を促進するため、「山陰海岸ジオパーク」、「南紀熊野ジオパーク」など関西の優れた地質景観スポット情報の外国人向けフリーペーパーへの掲載や、(一社）関西観光本部の観光情報サイトを通じた情報発信を行った。

（４）関西文化の振興と国内外への魅力発信及び連携交流による関西文化の向上

- 関西の祭りや文化イベントの情報を web 上で検索できるようデータベース化するとともに、web 上でアーティスト・イン・レジデンスをテーマとした国際シンポジウムを開催するなど、関西の先進的な取組を国内外に発信した。
- 住民が関西の文化にふれる機会づくりとして、関西２府８県の美術館や博物館などの文化施設の協力を得て入館料を無料とする「関西文化の日」事業や当該事業の期間を拡大する「関西文化の日プラス」事業を、関西元気文化圏推進協議会及び（一社）関西観光本部との連携により実施してきた。
- 関西の文化力の向上や機運醸成を図るために、平成 29 年（2017）年４月に先行移転した文化庁の地域文化創生本部や歴史街道推進協議会などとも連携し、歴史文化遺産フォーラムの開催や、パネル・リーフレット等による関西の世界文化遺産や日本遺産の情報発信を行った。

（５）関西文化の次世代継承

- 次代を担う文化人材の育成を図るため、関西の子どもたちが伝統文化や生活文化を学び親しめる親子体験教室を開催した。

（６）情報発信・連携交流支援・人づくりを支えるプラットフォームの活用

- 様々な分野の専門家等と意見交換するためのプラットフォーム「はなやか関西・文化戦略会議」を立ち上げ、関西文化の振興策に関する検討を行った。

（7）産官学連携による関西文化の創造

・　（公社）関西経済連合会や（公財）関西・大阪 21 世紀協会等と連携して「文化創造・交流プラットフォーム」を構築し、芸術家と関西企業の共創による新たな文化創造の取組を実施した。

（8）大阪・関西万博に向けた取組

・　（一社）関西観光本部をはじめとする関係機関と協力し、「EXPO2025 関西観光推進協議会」を設立し、旅行商品・コンテンツの造成を進め、海外における旅行博や展示会への出展、ウェブサイトにおける情報発信等を通じて大阪・関西万博の機運醸成とあわせて旅行商品の訴求を行った。

・　大阪・関西万博開催期間中における外国人旅行者の安心・安全な旅をサポートするため、通訳案内士やホテルコンシェルジュ等に対しセミナーや実地研修を行った。

・　イラストマップと位置情報の連動による、わかりやすい観光スポット情報の提供を実現する、関西広域観光デジタルマップの整備を進めた。

【参考データ】

◆ 関西の日本遺産（詳細内訳）

名称	所在地
琵琶湖とその水辺景観～祈りと暮らしの水遺産～	滋賀県
日本茶 800 年の歴史散歩	京都府
丹波篠山デカンショ節－民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶－	兵庫県
日本国創成のとき～飛鳥を翔（かけ）た女性たち～	奈良県
六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～	鳥取県
「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～	徳島県・香川県・愛媛県・高知県
『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～	兵庫県
森に育まれ，森を育んだ人々の暮らしとこころ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～	奈良県
鯨とともに生きる	和歌山県
地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市	鳥取県
鎮守府　横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～	京都府・神奈川県・広島県・長崎県
荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～	京都府・大阪府・兵庫県・鳥取県・北海道・青森県・秋田県・山形県・新潟県・富山県・石川県・福井県・島根県・岡山県・広島県・香川県
忍びの里　伊賀・甲賀―リアル忍者を求めて―	三重県・滋賀県
300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊	京都府
1400 年に渡る悠久の歴史を伝える「最古の国道」～竹内街道・横大路（大道）～	大阪府・奈良県
播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道～資源大国日本の記憶をたどる 73㎞ の轍～	兵庫県
絶景の宝庫 和歌の浦	和歌山県
「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地 紀州湯浅	和歌山県
きっと恋する六古窯―日本生まれ日本育ちのやきもの産地―	滋賀県・兵庫県・福井県・愛知県・岡山県
「百世の安堵」～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～	和歌山県
1300 年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼～	滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・岐阜県
旅引付と二枚の絵図が伝えるまち―中世日根荘の風景―	大阪府
中世に出逢えるまち～千年にわたり護られてきた中世文化遺産の宝庫～	大阪府
「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂	兵庫県
日本海の風が生んだ絶景と秘境－幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」	兵庫県・鳥取県
藍のふるさと　阿波～日本中を染め上げた至高の青を訪ねて～	徳島県
海を越えた鉄道 ～世界へつながる　鉄路のキセキ～	福井県・滋賀県
京都と大津をつなぐ希望の水路　琵琶湖疏水～舟に乗り、歩いて触れる明治のひととき～	滋賀県・京都府
女性とともに今に息づく女人高野～時を超え、時に合わせて見守り続ける癒しの聖地～	大阪府・奈良県・和歌山県
「伊丹諸白」と「灘の生一本」下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷	兵庫県
もう、すべらせない！！～龍田古道の心臓部「亀の瀬」を越えてゆけ～	大阪府・奈良県
「葛城修験」－里人とともに守り伝える修験道はじまりの地－	大阪府・奈良県・和歌山県

（出典：日本遺産ポータルサイト　（令和６(2024)年 12 月現在)）

◆8 つの広域観光ルート「THE EXCITING KANSAI」の造成

	エリア名	コンセプト	主な府県
エリア１	紀伊半島	巡礼の道	和歌山県
エリア２	山陰海岸	海岸の美と恵	京都府、兵庫県、鳥取県、福井県
エリア３	播磨	名城と京への道	兵庫県
エリア４	琵琶湖西岸〜北陸	水と生きる地	滋賀県、福井県
エリア５	淡路島〜徳島	神話と海の架け橋	兵庫県、徳島県
エリア６	丹波	実りの里山	兵庫県、京都府
エリア７	伊勢〜奈良	神話から古代の道	奈良県、三重県
エリア８	福井〜琵琶湖東岸〜伊賀	侍と工芸の地	福井県、滋賀県、岐阜県、三重県
追加ルート	徳島〜加太（和歌山市）	関西でSDGsを感じる旅	徳島県、和歌山県
	若狭〜京丹波	田舎の暮らしに触れる旅	京都府、福井県
	三重〜滋賀(東海道)	京都〜江戸間の主要ルートを辿る	三重県、滋賀県

（出典：(一社)関西観光本部資料）